



横浜市福祉サービス第三者評価

# 評価結果報告書

## ヒューマンアカデミー 大倉山保育園

平成 28 年 3 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

## 目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	6
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	9
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	10
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	11
評価領域Ⅵ 経営管理.....	12
利用者家族アンケート分析.....	13
利用者本人調査.....	17
事業者コメント.....	19



## 実施概要

事業所名	ヒューマンアカデミー大倉山保育園
報告書作成日	平成 28 年 2 月 25 日 (評価に要した期間4カ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

### \*評価方法

- 
1. 自己評価 【実施期間：平成 27 年 10 月 5 日～12 月 7 日】
- ・趣旨などの説明後、各職員が自己評価票を記入した。
  - ・個々の自己評価をもとに各クラスで話し合いを行い、集計結果をまとめた。
  - ・クラスでまとめた内容について、全体で話し合いを行い、その後、園長・主任でまとめた。
- 
2. 利用者家族 アンケート調査 【実施期間：平成 27 年 11 月 16 日～11 月 30 日】
- 配 付：全園児の保護者（46 家族）に対して、園から手渡しした。
- 回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
- 
3. 訪問実地調査 【実施日：平成 28 年 1 月 22 日、1 月 26 日】
- 第 1 日目
- 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
- 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長）
- 第 2 日目
- 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
- 午 後：職員ヒアリング調査  
(主任・リーダー保育士 3 名・非常勤保育士 1 名・看護師 1 名・栄養士 1 名)  
事業者面接調査（園長、主任）
- 
4. 利用者本人調査 【実施日：平成 28 年 1 月 22 日、1 月 26 日】
- ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。
  - ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。
-



## 評価結果についての講評

### 【施設の概要】

ヒューマンアカデミー大倉山保育園は、東急東横線大倉山駅から徒歩約10分の環状2号に面したビルの1階にあります。平成26年4月にヒューマンライフケア株式会社によって開設されました。交通に便利でありながら、周辺は熊野神社や市民の森、多数の公園等、自然環境に恵まれた立地となっています。

園は玄関を入れて右手順に事務室兼医務室、相談室、多機能トイレ、調理室となっています。廊下を挟んで反対側は大きな一つの空間になっているオープンスペースの保育室があり、各保育室は保育園児の個人ロッカーなどの棚で区切られおり、一目で見渡せます。保育室の周辺には幼児用トイレと手洗い場を設け、0歳児室には調乳室と沐浴設備と温水シャワーを備えた沐浴室があります。3階の一部にトイレと温水シャワーの設備を備えた活動スペースがあり、プール遊びや植物の栽培などに利用しています。

定員は60名（生後57日～就学前まで）です。延長保育、一時保育を実施していて、開園時間は7時00分～20時00分、土曜日は7時00分～15時30分です。

保育理念は、「こどもの自立の芽を育てる」と定め、保育方針を「受けとめる保育・支える保育・待つ保育」とし、保育理念をもとに保育目標を「自分で決められることも[自主性] 違いを認められることも[社会性] 命をたいせつにすることも[慈愛の心]」としています。

## 1. 高く評価できる点

### ●一人一人が大切に見守られ、子どもたちは生き生きと園生活を送っています

園では、歩くことが健康の基礎になるとして、子どもたちの年齢に応じた脚力がつくことを目標に「歩育（ほいく）」と称して、散歩などの活動を行っています。0歳児クラスでも「お散歩行く人？」と聞かれると、「は～い」と手をあげ、しっかり歩いて散歩に行きます。また、発達過程に応じて運動能力を高める取組を実施しています。1歳児のクラスでは、マットの上を反対側で待っている保育士のところまで子どもたちが一生懸命ジャンプをして向かう姿が見られました。年齢に応じて子どもたちはマット運動やリトミックを楽しみ、幼児は空手を通して、運動だけでなく礼儀も学んでいます。

自由遊びの中で、子どもたちは一人で絵本を読んだり、保育士の膝の上で読んでもらったり、さまざまな場面で絵本に触れています。また、活動の区切りの場面や遊びが一段落したクールダウンのときなども、クラスごとに保育士が読み聞かせを行っています。読み聞かせの中で、保育士が「どうぞ」と絵本の中の食べ物を手で差し出すと、子どもたちは口を開けてパクンと食べるしぐさをするなど、絵本を通して言葉のキャッチボールを楽しみながら、食い入るようにお話を聞いています。

日々の保育が理念に基づいて実施されるよう保育士は心がけています。乳児クラスでは発達段階に応じて少しずつ自分のことが自主的にできるよう保育士は働きかけています。幼児クラスでは保育士との関わりの中で生活の流れをつかみ、ロッカー内を子ども自身が整理しています。子どもたちは年齢に応じて生活習慣を身につけ、保育士は見守って子どもができないところを手助けしています。利用者家族アンケートでも見守る姿勢が良いという声があります。

保育室はオープンスペースですので、ほかのクラスの様子が伝わります。日常的にほかのクラスと一緒に散歩に行ったり、朝夕の自由遊びでは年長児が乳児クラスに遊びに来たりしています。4、5歳児は午睡後に2歳児クラスの子どもの着替えを手伝う等、異年齢の触れ合いがあります。

## ●園長を中心に職員が連携をとって、より良い保育を行うよう取り組んでいます

日々の保育の中や職員会議時などに、園長の助言をもとに理念に立ち返り、職員同士が振り返りを行う仕組みができています。子どもたち一人一人が尊重され、「子どもが一番」として、園長をはじめ、職員全体で子どものしたいことを大切に考え、保育を行うことを心がけています。保育士は子どもの年齢に応じて必要なことを伝えるようにしています。散歩の目的などを話して、その後の行動は子どもたちの意見を取り入れる等、柔軟に対応しています。また、保護者からの要望についても母乳での育児を希望する保護者から冷凍母乳を預かり、対応する等、柔軟に伝えるように努めています。

職員は「個人別年間研修計画」に【成長目標】と【研修目標】を記載して反省・感想を記入するなどして自己研鑽に努めています。保育士は「保育士の自己点検・自己評価のためのチェックリスト 300 項目」を使って保育を振り返っています。管理栄養士は食育計画を立て『食を営む力』の基礎を培うとして各クラスと関わっています。看護師も年間保健計画を作成し、年間目標を定め、子どもと職員が安心して園生活が送れるよう努めています。このように、各職種の職員が園長を中心に連携を取ってより良い保育園になるよう取り組んでいます。

## ●円滑な業務が行えるよう、書類が整備されています

各種マニュアルや記録などの書類について、職員が記録しやすい書式に変更する工夫を重ねるなど、保育業務が円滑に行えるように整備されています。戸外活動記録は目的・ねらい以外はチェックをするだけで済み、同様にヒヤリハットも記録しやすい書式に変更し、提出件数が多いほど事故は未然に防げるとして職員は意識を持って「ヒヤリハットチェックシート」を作成しています。保護者からの苦情・要望の記録は口頭や連絡帳などで伝えられた小さなものも含めて「保護者苦情対応シート」に記入し、苦情報告の必要のあるものは「クレーム報告」として記録しています。「くれよんだより」(園だより)には、“自己評価”として、保護者からの要望で改善できることから順次行っている取組などを掲載し、保護者に伝えています。当園は開設2年目ですが、利用者家族アンケートでも“早急に取り組んでいることが多い”と保護者から評価を受けています。

## 2. さらなる工夫が望まれる点

### ●地域の子育て支援のさらなる充実が望まれます

園は地域に根ざした保育園を目指し、園長会や近隣の保育園、情報誌などを通して、地域の子育て支援ニーズを把握する取組を行っています。一時保育のニーズについては、定期的に受け入れができるよう、土曜日の保育時間を延長することを予定しています。

今後はさらに、園が培った育児に関する知識、職員の豊富な経験と技能を活かして、離乳食の進め方、リズム遊び、読み聞かせの方法等、地域住民に向けた子育てや保育に関する講習・研修会を開催するなどの地域貢献が望まれます。









## 分類別評価結果




3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

### 評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重




<p><b>評価分類 I-1</b></p> <p><b>保育方針の共通理解と保育課程等の作成</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育理念は「こどもの自立の芽を育てる」と定め、理念を基に保育方針を「受けとめる保育・支える保育・待つ保育」とし、保育目標を「自分で決められるこども〔自立性〕 違いを認められるこども〔社会性〕 命をたいせつにすることも〔慈愛の心〕」としていて、利用者本人を尊重したものとなっています。</li> <li>・全職員が基本方針を理解できるよう、日々の会議の始まりに指名された職員は理念・方針・目標を発表するようにしています。また、これを基に指導計画が作成されるので、職員は理解しています。</li> <li>・保育課程は、保育理念・保育目標に基づき、一人一人の子どもの発達過程や家庭状況を踏まえるなど、子どもの最善の利益を第一義にし、家庭の状況や自然に恵まれた地域の環境などを考慮して作成されています。</li> <li>・保育課程に基づき共通項目（保育目標、ねらい、養護、教育等）を定め、年齢ごとに発達過程や連続性を踏まえた年間指導計画や月間指導計画を作成しています。</li> <li>・乳児等言語化できない子どもの表情・態度から意思を汲み取り、幼児は考えや意見を聞き日々の保育に取り入れています。子どもの意見・意思を尊重して、指導計画を見直し柔軟に対応しています。例えば運動会や行事の内容を子どもの意見を尊重して計画を変更しています。</li> </ul>	
<p><b>評価分類 I-2</b></p> <p><b>子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前に児童票を記入してもらった上で、入園説明会を実施して、保護者と面接しています。入園までの生育歴や家庭状況は書類で把握するとともに、面接時に子どもの生育歴や家庭での状況を聞いています。把握された子どもの生育歴などの情報は職員が共有していて、保育に活かしています。</li> <li>・短縮保育（ならし保育）は保護者の要望を聞いて、子どもに負担がかからないよう、子どもの状態を優先してならしていくように説明しています。</li> <li>・0、1、2歳児については、所定の連絡帳を使用し、毎日子どもの様子について保護者に丁寧な連絡を心がけています。保護者も家庭での様子を記入し相互に理解を深めています。3歳児からも全員が連絡帳を用い、必要な連絡を行ない、家庭からの連絡があったときは必ず返信しています。</li> <li>・月間指導計画や個別指導計画は、子どもの発達や状況に応じて作成し、評価や見直しをして、次の計画を作成しています。特に乳児は個人差を考慮して指導計画を作成しています。評価・改訂に当たっては、散歩の距離等、アンケートや保護者の意見を参考にして、保護者の意向を反映するよう心がけています。</li> </ul>	
<p><b>評価分類 I-3 快適な施設環境の確保</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内外の清掃はマニュアルに沿って行われ、常に清潔に保たれています。通風・換気には留意していて、気になる臭いはありません。施設内の温・湿度は、温度計・湿度計を置き、エアコン・加湿器などで調整しています。陽光は十分取り入れられています。</li> <li>・沐浴室に沐浴設備と温水シャワーの設備があります。沐浴・温水シャワーは使用したとき清掃するだけでなく、定期的に清掃しています。</li> <li>・0歳児の保育室は眠りたいときに眠れるよう食事をする場所と別に睡眠の場所を確保しています。ほかの保育室は食べること、寝ることを同じ部屋でしていますが、給食のあと、子どもたちは給食を食べた場所と別の場所で着替えをして、保育士が読み聞かせなどを行っています。その間に保育士は床を丁寧に拭くなどしてからコット（簡易ベット）を敷き、午睡に入っています。早く眠くなった子どもは別の場所で寝ています。</li> <li>・オープンスペースの保育室となっていて、朝や夕方の自由遊びの時など、日常的に異年齢で遊んでいます。</li> </ul>	




<p><b>評価分類 I-4</b></p> <p><b>一人一人の子どもに個別に対応する努力</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳未満児については、子どもの生育歴や心身の発達を考慮して、個別指導計画を作成しています。個別の目標・計画は、クラス担任同士で常に話し合い、検証しています。毎月の職員会議でも一人一人の子どもについて話し合い、子どもの発達状況に合わせて、柔軟に対応しています。個別指導計画については、保護者と個別に面談を実施して説明し、同意を得て、保護者と連携をとり、作成しています。今後は幼児についても特別な課題がある場合などは、個別指導計画を作成することが望まれます。</li> <li>子どもや家庭の個別の状況・要望は、児童票、児童健康台帳、個別指導計画等、定められた書式に記録しています。入園後の子どもの保育経過記録として、「発達記録」に記入しています。子どもの記録内容は事務室のロッカーに保管し、職員は共有しています。重要な申し送り事項は記録し、進級時に担当が次の担任に伝達しています。</li> </ul>	
<p><b>評価分類 I-5</b></p> <p><b>保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。特に配慮を要する子どもの個別のケースについては、クラスや職員会議で話し合い、個別の記録に反映させています。職員は積極的に研修に参加し、職員会議等で職員に報告して共有するとともに、得た知識を保育に活かしています。また、横浜市総合リハビリセンターの巡回指導を受け、職員は、専門家の助言を受けて保育に活かしています。</li> <li>園は段差がなく、バリアフリー構造で、多機能トイレを備えています。横浜市総合リハビリテーションセンターなどと連絡を密にして、助言や情報を得て、保護者とも話し合っています。障害児保育については研修に参加した職員の報告を受け、職員間で学習し話し合える体制になっています。</li> <li>虐待防止に関するマニュアルが事務所に備えられ、事務室入口に虐待防止のポスターも掲示されています。虐待に関する研修を受けた職員の報告を共有する等、全職員に周知しています。虐待が明白になった場合などは、まず港北区こども家庭支援課や北部児童相談所に連絡する体制ができています。日頃から保護者と連絡を取り合い、家庭支援が必要と思われる保護者には、さり気なく声をかけ、落ち着いた話を聞く機会を設けています。</li> <li>アレルギー疾患のある子どもについては、かかりつけ医の指示を受け、適切な対応をしています。食物アレルギーについては、医師の「生活管理指導表」を提出してもらい、保護者と栄養士、保育士と連携を密にして、除去食を提供しています。除去食を提供する場合は、誤食事故を防止するため、給食担当者が担任に除去食品を説明し、担任は復唱し名札の付いたピンクのトレイを受け取り該当の子どもに提供しています。</li> <li>意思疎通の困難な保護者には日常は身振り手振りで理解を求め、手紙に仮名を振るなどしていますが、書類などが必要なときは通訳を介して作成しています。子どもに対しては保育士が簡単な単語を覚え、子どもと交流することで子どもは言葉を覚え順応しています。</li> </ul>	
<p><b>評価分類 I-6 苦情解決体制</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>苦情受付に関して記載された「入園のご案内（重要事項説明書）」が保護者に配布され、入園説明会などで説明されていて、玄関にも掲示されています。苦情受付担当者は主任保育士とし、苦情解決責任者は園長となっています。地区民生委員が第三者委員に決まっています、直接苦情を申し立てることができます。おたよりポストを玄関に設置し、保護者が園長や主任に話しやすい雰囲気を作って要望などを聞いています。</li> <li>要望や苦情を受け付け、対応するための仕組みはマニュアルとして文書化され、第三者委員を交えて対応する仕組みは、文書に明記されています。</li> <li>過去の苦情・トラブル、要望は、口頭や連絡帳などで伝えられた内容等、全て「保護者苦情対応シート」に記入し、そこから苦情報告書の必要のあるものは原因の考察等、詳細を「クレーム報告書」に記入し、データを蓄積・整理して解決に活かしています。</li> </ul>	

## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容



評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年齢や発達、子どもの興味に合わせた玩具や絵本を用意しています。ペットボトルにドングリを入れたマカスや、ペットボトルキャップで作った玩具、牛乳パックの電車など手作りのもののほか、ブロック、パズル、塗り絵、ままごと、人形と人形用の抱っこひも、粘土、音の出る玩具などを各保育室に設置しています。</li> <li>• 今年度、子どもたちが主体的な遊びを豊かに展開できるように、各保育室の環境改善に取り組んでいます。保育の環境構成を職員間で共有し、各クラスで考えた保育環境のもと、手指を使った遊びやごっこ遊び等、テーマ別に遊びがどのように発展していくか観察を行い、年度末に職員間で話し合う予定になっています。</li> <li>• 一斉活動として、ごっこ遊び、散歩など日常的な遊びのほかに、鬼ごっこやしっぽ取りゲーム、かけっこ、ドッチボールなどのルールのある遊びを取り入れています。また、公園で遊ぶ前などには、子どもたちに「お約束」として、守らなくてはいけないことを説明しています。</li> <li>• 3階の屋外スペースを利用し、ピーマンやトマト、ナス等、夏野菜の栽培をしています。収穫した野菜は調理室に持っていき、給食の材料として子どもに提供したり、玄関に飾って、他のクラスの子どもたちや保護者とも喜びを分かち合うなど、栽培を通して得られる体験を保育活動にフィードバックしています。また、かたつむりの飼育では、かたつむりの子どもが生まれ、希望する家庭で持ち帰るなどしています。</li> <li>• 子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう、製作やお絵かき、歌、手遊び、リズム・リトミックなどを行っています。1歳児クラスでは日々の中でリズム遊びを行い、2～4・5歳児クラスでは、月2回専門講師によるリトミックを行っています。リトミックはクラスごとに行われ、子どもの発達に合ったプログラムに沿って身体を動かし、全身を使って自己表現をしています。</li> <li>• 月2回、専門講師が来園し、3、4・5歳児クラスの子どもに空手を指導しています。空手は、運動能力の向上だけでなく、礼儀や挨拶、精神を統一し、心を静めることにも効果があると考え、取り入れています。</li> <li>• 幼児クラスの子どもたちが、様々な物の名称に触れる取組として、「フラッシュカード」を活用しています。「鳥カード」「お店カード」「標識カード」など絵の描いてあるカードを、テンポよく次々子どもたちに見せ、保育士が名称を読み上げ、子どもが復唱していきます。</li> <li>• 週1回、2歳児クラスから英語の時間を設けています。英語を母国語とする専門講師が各クラスに20分ずつかわり、子どもたちが外国語に触れる機会を作っています。</li> <li>• 保育室内はオープンなスペースとなっており、広い一つの空間を柵で区切り、各クラスに分けています。そのため、各クラスがどのような活動をしているのかお互いで把握することができ、クラス間の交流も日常的に行われています。 朝夕の合同保育、土曜保育や異年齢での散歩、異年齢での食事やおやつ、4・5歳児クラスの子どもが2歳児クラスの着替えを手伝ったり、2歳児クラスの簡易ベッドを自分の雑巾で拭く等、さまざまな取り組みを通して、異年齢の子ども同士が関わりを持てるように配慮しています。</li> <li>• 歩くことが健康の基礎になるとして「歩育」を重視し、年齢に見合った脚力がつくことを目標に散歩を行っています。園では同じビルの3階にある駐車スペースの一角を柵で区切り、園庭として使用していますが、十分なスペースではないため、天気の良い日にはできる限り散歩に行くように取り組んでいます。0歳児クラスにおいては、無理をせずに、園の周辺を散策するところからはじめ、少しずつ歩行距離を伸ばしていき、2歳児クラスでは片道20分の距離も歩けるようになってきています。3～5歳児のクラスでは、片道30分以上の距離を歩くことができます。</li> </ul>	






<p><b>評価分類Ⅱ－１ 保育内容 [生活]</b></p>	<p><b>評価結果</b></p>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食を営む力の基礎を培う」ことを掲げ、年齢に応じた食育計画を立てています。園長は、何にでも命があり、それを頂くという感謝の気持ちを子どもに育てたいと考えており、食べる姿勢を大切にしています。</li> <li>・3、4・5歳児では月1回クッキング保育を行っており、2歳児クラスも不定期で行っています。クッキング保育は、スパゲッティを2つに折るといった簡単なものから、バター作り、豆乳ドーナツ作りや、作ったカレーでパーティーをする等、楽しい企画となっています。</li> <li>・季節感がある献立として、行事食を提供しています。ハロウィンのときには、おばけの形をしたごはんを提供し、月見の時期には、うさぎ型のまんじゅう、誕生日会ときには旬のフルーツを提供し、子どもを楽しませています。また、「知ろう食べよう！日本の郷土料理」と題し、月1回、各地の郷土料理を提供しています。</li> <li>・1カ月に2回同じメニューを提供する「サイクルメニュー」を取り入れています。1回目に残菜が出たメニューについては、2回目の味付け方法を変えるなど、調理方法を工夫しています。</li> <li>・保護者の試食会を年2～3回開催しています。試食会は、5月の懇談会の後や、保育参加の後に実施し、保護者が参加しやすいように考慮しています。土曜日に行う地域行事の際にも、試食できる機会を設けています。</li> <li>・安心して心地よい眠りにつけるよう、ロールカーテンを使用し、子どもの顔が見える明るさを保っています。午睡は各クラスの保育室で行い、1歳児以上のクラスでは、コット（簡易ベッド）を使用しています。</li> <li>・0歳児クラスから、トイレに座りはじめ、トイレで排尿することに成功している子どももいます。2歳児クラスになると、日中はパンツにするなど、個別の状況を見極めながら対応をしています。おもしろについては、「悪いことじゃないよ」、「出ちゃうときもあるよ」等、責めることの無いように声かけをしています。</li> </ul>	
<p><b>評価分類Ⅱ－２</b></p> <p><b>健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</b></p>	<p><b>評価結果</b></p>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「年間保健計画」を作成し、計画的に子どもたちの健康管理を行っています。受け入れ時の子どもの健康状態を「朝の視診表」と「体温チェック表」に記録しています。また、保育中に子どもの健康状態に変化があった場合の対応方法や与薬などについては「入園のご案内（重要事項説明書）」に記載して保護者に伝えています。保護者への連絡や降園後の対応については、担任と園長、主任、看護師が話し合い、保護者に伝えています。</li> <li>・1歳児クラスの途中から歯磨きの指導を始めています。1歳児クラスでは、「歯磨きの歌」に合わせてブラッシングをする姿がみられました。</li> <li>・健康診断の結果は、「健康診断の記録」という書面で保護者に知らせ、押印をもらっています。</li> <li>・「感染症対応マニュアル」には、各種感染症とその対策、対応方法を明記しています。入園前のオリエンテーションでは「入園のご案内（重要事項説明書）」を用いて、登園許可書が必要な感染症と登園届が必要な感染症を個別に説明するとともに、保育室内にも掲示をしています。</li> </ul>	
<p><b>評価分類Ⅱ－２</b></p> <p><b>健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</b></p>	<p><b>評価結果</b></p>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事開始前に、各職員は「健康・衛生チェック表」の各項目（発熱・嘔吐は無い、爪は短く切っている等）をチェックして、保育室などに入っています。調乳前には「調乳・手洗いチェック表」を用いて自己の衛生状況を確認しています。清掃状況については、「美化チェックリスト」で日々の実施状況をチェックしています。</li> </ul>	

<p><b>評価分類Ⅱ－２</b></p> <p><b>健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「危機管理マニュアル」、「安全・危機管理マニュアル」を用意し、災害などに備えています。</li> <li>・毎日「安全点検表」に基づき園内 36 箇所の点検を行い、月 1 回「事故リスク軽減チェック表」に基づき、「ドアを開閉するとき、子どもの手や足の位置を確認している」、「滑り台のうえでふざけたり、逆さ登りをさせないようにしている」等、各クラス 25 項目程度のチェックを行っています。</li> <li>・子どものケガについては、担任から園長・主任に報告し、看護師を交えて保護者に電話をするかどうか検討しています。医療機関を受診をしたケースや誤飲、食物アレルギーの誤食、投薬ミス、迷子、不審者などについては、全て事故と分類し、「事故報告書」に記載し報告することと決めています。軽症であっても、保護者に状況を報告し、「軽度事故報告書」や「ヒヤリチェックシート」に記載しています。</li> <li>・警備会社のセキュリティシステムを導入しています。園の入り口は常時施錠されており、保護者は個別に渡されているカードを用いて解錠しています。</li> </ul>	
<p><b>評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、園長や主任が適宜現場に入り、指導をしています。年度初めの職員会議では、「倫理について」や「全国児童養護施設協議会倫理綱領」などを基に、園長から職員に話しています。また、運営会社で行う研修にも、職員を派遣する予定になっています。</li> <li>・保育室はワンフロアのオープンスペースになっているため、設備面で、友達や保育士の視線を意識せず過ごせる場所を設定するのは難しい状況となっています。そのような状況のなか保育士は、クッションマットを工夫してコーナーを作り、子どもの身体が隠れるスペースを随時作る等、対応しています。</li> <li>・子どもの写真の撮影や使用にあたって、保護者から承諾書を得ています。</li> <li>・遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていません。</li> </ul>	
<p><b>評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者には、入園説明会や個別に行う入園前のオリエンテーションなどで、園の方針などについて説明をしています。また、年 2 回行う保護者会でも、園の方針や重要事項を伝えています。</li> <li>・個人面談を年 2 回行っています。1 回目は、夏頃に個人面談期間を設け、希望者を対象に行っています。2 回目は 2 月頃、可能な範囲で全員に対して、進級に向けた個人面談を行っています。</li> <li>・クラス懇談会を年 2 回、5 月頃と 11 月頃に行い、クラス全体の様子を伝えています。5 月のクラス懇談会では、給食の試食も行っています。</li> <li>・保護者の相談は、ほかの人に聞かれることの無いように相談室を使用しています</li> <li>・園だより「くれよんだより」を毎月発行しています。くれよんだよりには、当月予定や誕生日を迎える子どもの名前、各クラスの保育目標、今月の歌、お知らせ、アンケート等の結果を掲載しています。</li> <li>・「クラスだより」も毎月発行し、各クラスの活動内容や子どもの様子、今月の絵本や手遊び、フラッシュカードの種類などを保護者に知らせています。</li> <li>・保育参加を年 5 回設定し、保護者に個別の子どもの様子を伝えています。5 回のうち 2 回程度は食育の活動に設定しています。次年度は、より保護者が参加しやすいような保育参加の機会を検討しています。</li> <li>・年 2 回、保護者 2 名と外部委員、園長、主任などでメンバー構成される運営委員会が開催されています。運営委員会などで、保護者と意見交換をしています。</li> </ul>	




## 評価領域Ⅲ 地域支援機能

<p><b>評価分類Ⅲ－１</b></p> <p><b>地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の子育て支援ニーズについて、一時保育の利用希望者や育児支援の利用者、園長会、近隣の保育園、情報誌などを通して把握しています。1歳児の一時保育ニーズなどについて把握しているものの、現状では受け入れが難しい状況となっています。</li> <li>• 地域子育て支援として、一時保育や育児支援、育児相談などに取り組んでいます。育児支援事業の「わいわい保育」と「わいわいクッキング」は、月に1回程度交互に行われ、土曜日に開催しています。土曜日に開催することで、地域の親子だけでなく、在園児も参加できるようにしています。小麦粉ねんど遊びやパネルシアター、カレーパーティー、バター作り等、親子で楽しむことができるプログラムを行っています。</li> <li>• 地域住民に向けて、育児講座を行うなどの取組には至っていません。</li> </ul>	
<p><b>評価分類Ⅲ－２</b></p> <p><b>保育所の専門性を活かした相談機能</b></p>	<p><b>評価結果</b></p> <p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 育児相談等、地域子育て支援に関する情報を港北区役所や子育て情報誌などに提供したり、園の玄関に掲示する等、情報提供に努めています。園長と主任が担当となり、育児相談を週1回、毎週水曜日に受け付けています。</li> <li>• 関係機関・団体として、港北区役所や消防署、交番、近隣の保育園、北部児童相談所などと連携をしています。</li> </ul>	




## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

<p><b>評価分類Ⅳ－1</b></p> <p><b>保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</b></p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会やサマーフェスティバルに地域の住民や育児支援利用者などを招待しています。</li> <li>・5歳児クラスは、近隣の連携園との交流保育を行っています。5歳児クラスの子どもたちは、近隣保育園とのドッジボール大会に向けて、練習をしています。</li> <li>・地域の人たちに、トイレを貸すなどしていますが、地域への施設開放や備品の貸し出しをするまでには至っていません。</li> </ul>	
<p><b>評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供</b></p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットは、運営会社全体のものと、園のリーフレットの2種類を用意しています。ホームページを開設し、将来の利用者が手軽に園の最新情報を入手できるように配慮しています。</li> <li>・見学日や時間は見学希望者の都合を優先しながら、保育内容や同年代の子どもの様子を見学してほしいと考え、乳児については、昼食前または午睡後、幼児については午睡後の時間帯の見学を推奨しています。</li> </ul>	
<p><b>評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ</b></p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育ボランティア・職場体験マニュアル」、「保育体験ボランティア登録書」を用意し、ボランティアの心得や受け入れ手順を明確にしていますが、ボランティアの受け入れ実績はありません。</li> <li>・「実習の流れ」や「保育実習とは」を用意し、それに基づき、実習生に説明を行っています。実習の目的に応じたプログラムとなるように、まず全てのクラスを体験してから、実習の目的に応じたクラスに入ることとしています。実習生にデイリープログラムを渡して、保育の流れを早く覚えることができるように配慮しています。</li> </ul>	

## 評価領域V 人材育成・援助技術の向上

<b>評価分類V-1 職員の人材育成</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育士に求められる役割・能力」「保育士人材育成ビジョン」「人材育成マニュアル」が定められて、運営会社の人材育成計画に理念・方針を踏まえた保育を実施することが明記されています。「保育士の自己点検・自己評価のためのチェックリスト」や「自己評価シート」を用いて、毎年個々の職員の資質向上に向けた目標を定め、達成度の評価を行っています。</li> <li>・園としての研修計画のほか、成長目標・研修目標を定めその目標に基づく個人別年間研修計画を作成しています。研修担当者の園長はそれぞれの個人別年間研修計画にアドバイスを記入して職員のモチベーションを高めています。</li> <li>・職員は、横浜市こども青少年局主催研修、港北区福祉保健センターこども家庭支援課主催研修、横浜市総合リハビリテーションセンター主催研修、横浜市医師会保育園医部会主催研修や社内研修や他園での研修等、積極的に参加しています。研修を受けた職員は報告書に記入し全職員が共有するとともに、職員会議でも報告して成果を職場で活かしています。</li> <li>・非常勤職員にも業務マニュアルを配布して説明しています。非常勤職員も職員と同様に内部研修に参加しています。非常勤職員も職員会議に出席していますが、参加できなかったときなども、必要事項を伝言したり、報告書を回覧したりして内容を把握するよう努めています。非常勤職員の日々の保育の指導担当者は各クラス担任が務め、園長がアドバイスや助言をしています。</li> </ul>	
<b>評価分類V-2 職員の技術の向上</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は「自己評価シート」の書式に記載し、自己評価の振り返りと改善内容を年2回作成して自己評価をしています。保育園として「園評価計画表」を定め、「保育園自己評価シート」に中期目標、短期目標、努力指標の記載に対し、今年度の取組、問題点、次年度に向けての改善策を記入する等、計画的に行なう仕組みを持っています。職員が参加した研修会の事例や園長が施設長会議や他園との交流から得た良いサービス事例などを職員会議などで学ぶ機会を設けています。</li> <li>・保育士等一人一人が振り返りを文章化できるように、書式が定型化されています。今年度はさらに自己評価がしやすいよう書式を変更し活用しています。自己評価は意図したねらいが達成されたか、記入し、クラスで話し合って確認しています。保育士等一人一人が自己評価を行い、実践を改善したり新たな課題を設定したりして、次の計画を作成しています。</li> <li>・保育士等の自己評価を職員会議などで報告し、意見交換をしています。職員会議などで自己評価を話し合い、園全体の課題については、全職員で改善に取り組んでいます。「園評価計画表」に基づく保育園自己評価シートは保育園の理念や保育方針、保育課程に沿って行われています。保育園の自己評価は今年度実施し、自己評価の年度末に公表することを予定しています。</li> <li>・保育の自己評価は子どもの成長や意欲を大切に、結果だけでなく、取り組む過程の子どもの言動を重視していますが、園は保育実践の振り返り、改善の足並みが揃っていないと考えています。</li> </ul>	
<b>評価分類V-3 職員のモチベーションの維持</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『保育士に求められる役割・能力』『保育士人材育成ビジョン』に経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されています。また、「職務分掌表」に園長・主任・保育士の役割が明記され、保護者対応等可能な限り権限を委譲し、責任を明確化しています。</li> <li>・職員会議等で、業務改善について、意見を言える仕組みがつくられています。その結果、掃除方法や書式の変更などが改善されています。</li> <li>・園長は新年度に向けて職員と面接し、要望などを聞いています。日常的にも職員と話したり、面談したりしていますが、職員の満足度・要望などの把握が不十分として、今後運営会社では、満足度を図る仕組みづくり、評価制度の導入などを検討しています。</li> </ul>	

## 評価領域VI 経営管理

<p><b>評価分類VI-1 経営における社会的責任</b></p>	<p>評価結果</p>
	<p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「倫理に関して」のマニュアルに、保育士が求められる倫理と併せて「全国児童養護施設協議会 倫理綱領」を掲載して職員が守るべき法・規範・倫理などを周知しています。</li> <li>• 園長は他施設での不正、不適切な事案や運営会社でのISO規定に応じた研修などを通して職員会議などで職員に周知しそれらの行為は行わないよう啓発しています。</li> <li>• ゴミ減量に努めるとともに、ボトルキャップ、衣類や雑貨などのリサイクルに取り組んでいます。保育室前の廊下に種類別のリサイクルボックス（洋服、おもちゃ、絵本、靴など）が置かれ、保護者間で活用しています。省エネ対策としてこまめに電灯やエアコンを消したり、LED電球を使用して『横浜ECO保育所』に認定されています。</li> <li>• 環境配慮の取組は、実施されていますが、園としての方針は明文化するまでには至っていません。</li> </ul>	
<p><b>評価分類VI-2</b></p> <p><b>施設長のリーダーシップ・主任の役割等</b></p>	<p>評価結果</p>
	<p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職員に配布している業務マニュアルや園のしおり、事業計画書等に、理念・基本方針、保育目標は掲載されています。また、園の玄関近くに掲示されています。職員会議などを通して、ことある毎に職員に理解を促すために説明し、方針と離れた保育に対しては会議等で園長が直接指導し、目標に沿った保育ができるよう配慮しています。</li> <li>• 運営委員会で保護者から土曜日の保育時間延長について要望があり、その後園長は運営会社と協議を重ねる等、意見交換をしています。保育活動スペースの確保等、重要な意思決定については、懇談会で保護者に伝えていきます。また、おたよりで知らせたり、園内に掲示するなどして保護者に説明しています。</li> <li>• 運営会社の上級（管理職）に主任クラスを計画的に育成するプログラムがあります。主任はクラスを持たず、各保育室を回り保育の支援をするなど保育の内容やその他の職務、個々の職員の業務状況を把握しています。主任は個々の職員が良好な状態で仕事に取り組めるように、積極的に声かけをしたり、相談を受ける等、配慮しています。</li> <li>• 重要な意思決定にあたり、保護者や職員と意見交換を行っていますが、異なる部門の職員による検討チームを編成し組織をあげて取り組むまでには至っていません。</li> </ul>	
<p><b>評価分類VI-3 効率的な運営</b></p>	<p>評価結果</p>
	<p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運営会社は保育園運営に関する情報を収集し分析しています。結果については、施設長会議で話し合っています。園長は施設長会議などで話し合われた情報を職員間で共有するため、職員会議などで報告し、職員の意見を聞いています。</li> <li>• 運営会社は中長期的な事業計画を策定しており、園長は施設長会議で運営会社の方向性を聞いています。運営会社で、次代の組織運営に備え、新たな仕組みを常に検討しています。園としても土曜日の保育時間延長により、一時保育の受け入れ拡大などを考えています。</li> <li>• 次代の施設運営に備え、幹部職員を育成していく計画があります。</li> </ul>	



## 利用者家族アンケート分析

### 【実施概要】

- 実施期間：平成 27 年 11 月 16 日～11 月 30 日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡して配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。
- 回収率：配付 46 件、回収 32 件、回収率 69.6%

\*文中の満足度とは「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合を足したものです。

### 【結果の特徴】

- ・園の保育目標や保育方針については、「知っている」（「よく知っている」と「まあ知っている」）の割合は 59.4%でした。このうち「賛同できる」と「まあ賛同できる」と肯定的な回答は 100%と極めて高くなっています。
- ・入園する時の状況については「お子さんの様子や成育歴などを聞く対応」「園での 1 日の過ごした方の説明」については満足度がそれぞれ 96.9%、93.8%でした。
- ・日常の保育内容で、「遊び」については「園のおもちゃや教材」「遊びを通じたお子さんへの健康づくりへの取り組み」の満足度は共に 93.8%でした。“家で出来ない経験が出来て感謝している”“園庭が無いので公園に行くのを子どもは楽しみにしている”等の意見の他、“午睡後も外遊びをして欲しい”という声もあります。
- ・「生活」については、「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み」「昼寝や休憩の対応」「体調の気配り」「保育中のケガに関する保護者への説明」は 90%を超える満足度でした。“好き嫌いがなくなった”“見守る姿勢がよい”“生活習慣は保育園で大半を学び、根気よく対応している”“遊びの中でのケガはおおらかな対応で構わない”など肯定意見が多い中、“ケガや体調についての報告が不十分”という声もあります。
- ・快適さや安全対策などについては、「感染症の情報提供」90.7%の満足度に対して「落ち着いて過ごせる雰囲気か」は 84.4%「外部の不審者侵入対策」は 81.2%と満足度はやや低くなっています。
- ・園と保護者との連携・交流について、「懇談会や個人面談など話し合いの機会」「園の様子や行事に関する情報提供」「お子さんの情報の連絡体制」「保護者からの相談事への対応」「開所時間内であれば柔軟に対応」の満足度は 90%を超えているのに対して「園の行事の開催日や時間帯への配慮」の満足度が 78.1%と低くなっています。自由意見として“先生に対する相談がしやすい”“連絡帳などでまめに相談できて良い”“丁寧に聞いてくれる”などがあります。
- ・職員の対応について、「お子さんが大切にされているか」「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」共に 93.8%、「話しやすい雰囲気、態度であるか」が 90.7%の満足度を得ています。“要望を早急に取り組んで頂く事が多い”“できる事からすぐ改善していく姿勢が見られる”など肯定的意見が多くありますが“先生によって違う”という意見もあります。
- ・総合満足度では、「満足」が 40.6%、「どちらかという満足」が 53.1%で満足度は 93.6%でした。

# ヒューマンアカデミー大倉山保育園 利用者家族アンケート集計結果

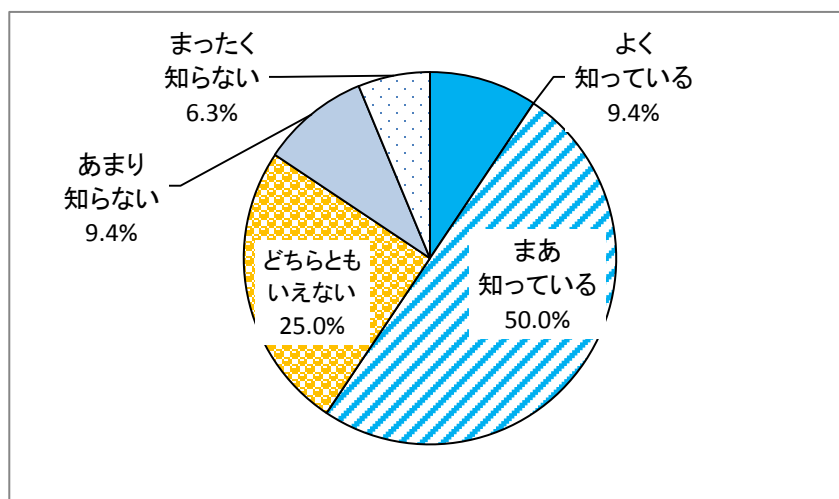
実施期間	平成27年11月16日～11月30日
調査対象	利用者家族
配布世帯数	46件
有効回答数	32件
回収率	69.6%

お子さんのクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答	(人)
	5	7	11	7	1	1	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

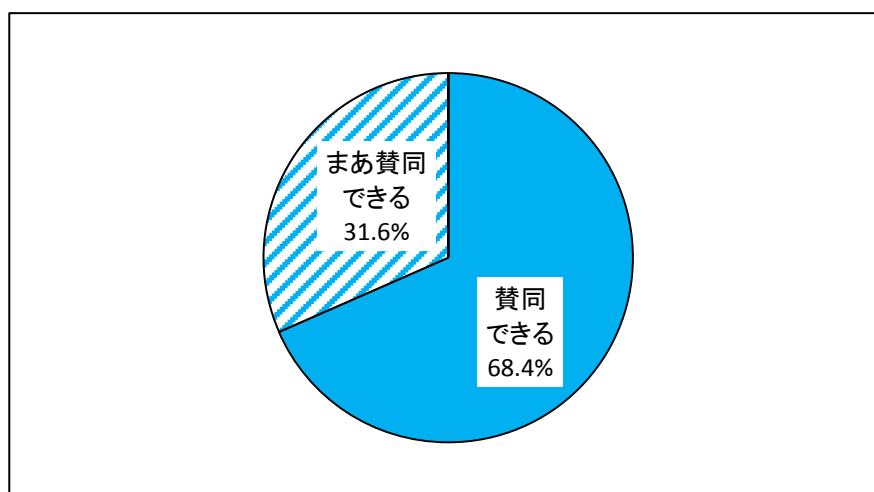
## 問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	9.4	50.0	25.0	9.4	6.3	0.0	



## 1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	(%)
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	68.4	31.6	0.0	0.0	0.0	0.0	





問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	40.6	25.0	3.1	3.1	28.1	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	31.3	37.5	9.4	3.1	18.8	0.0	
園の目標や方針についての説明には	25.0	50.0	9.4	3.1	9.4	3.1	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	65.6	31.3	3.1	0.0	0.0	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	43.8	50.0	3.1	0.0	3.1	0.0	
費用やきまりに関する説明については	50.0	31.3	12.5	6.3	0.0	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	43.8	50.0	0.0	0.0	3.1	3.1	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	37.5	43.8	6.3	3.1	3.1	6.3	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	53.1	34.4	6.3	0.0	3.1	3.1	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	34.4	40.6	12.5	6.3	3.1	3.1	
園のおもちゃや教材については	37.5	56.3	3.1	0.0	0.0	3.1	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	28.1	59.4	9.4	0.0	0.0	3.1	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	56.3	31.3	3.1	3.1	3.1	3.1	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	50.0	43.8	0.0	3.1	0.0	3.1	

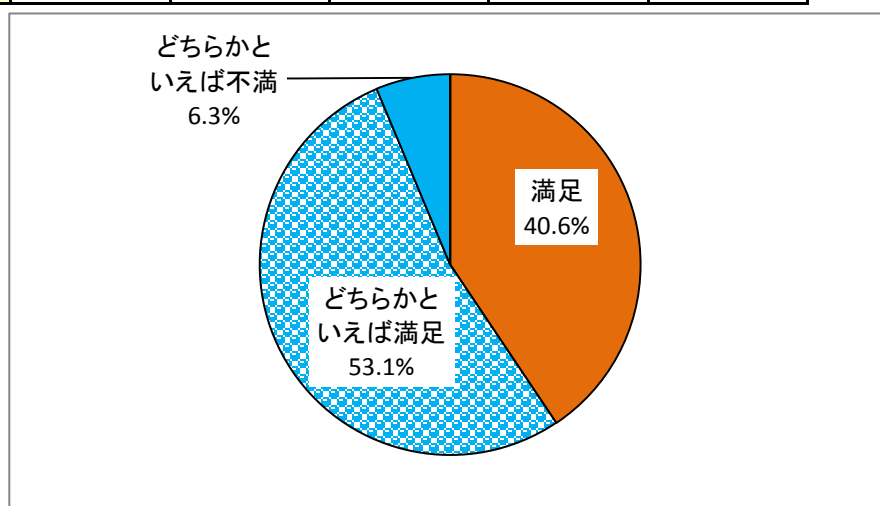
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	71.9	25.0	0.0	0.0	0.0	3.1	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	71.9	25.0	0.0	0.0	0.0	3.1	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	68.8	25.0	0.0	0.0	3.1	3.1	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	62.5	31.3	3.1	0.0	0.0	3.1	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	65.6	15.6	3.1	0.0	9.4	6.3	
お子さんの体調への気配りについては	68.8	25.0	3.1	0.0	0.0	3.1	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	53.1	37.5	6.3	0.0	0.0	3.1	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	31.3	40.6	18.8	6.3	0.0	3.1	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	34.4	50.0	12.5	0.0	0.0	3.1	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	40.6	40.6	12.5	0.0	0.0	6.3	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	46.9	43.8	3.1	3.1	0.0	3.1	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	37.5	53.1	6.3	0.0	0.0	3.1	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	40.7	53.1	3.1	0.0	0.0	3.1	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	40.6	37.5	12.5	6.3	0.0	3.1	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	31.3	53.1	6.3	9.4	0.0	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	34.4	59.4	3.1	3.1	0.0	0.0	
保護者からの相談事への対応には	40.6	50.0	6.3	0.0	3.1	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	53.1	40.6	3.1	0.0	3.1	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	56.3	37.5	6.3	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	62.5	31.3	6.3	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	34.3	37.5	0.0	0.0	21.8	6.2	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	56.3	34.4	3.1	3.1	3.1	0.0	
意見や要望への対応については	37.5	46.9	9.4	0.0	3.1	3.1	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	40.6	53.1	6.3	0.0	0.0	





## 利用者本人調査

### 【実施概要】

- 実施日時：平成28年1月22日、1月26日
- 実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

### ●0歳児クラス

午前中、散歩から帰り自由遊びの時間になると、子どもたちはベビーベッドのところに集まってきました。子どもたちは、自分で手に取ることができる玩具より、手の届かないベビーベッドのなかにある玩具に興味があるようでした。なかには手を大きく前方に差し出して、玩具をほしがる子どももいます。保育士に紙製のスタッピングボックス（箱の中に少し小さい箱が入っており、そのなかに少し小さい箱が入っているという入れ子構造もの）や、プラスチックで音が鳴るおもちゃを取り出してもらおうと、意欲的に遊び始めました。スタッピングボックスの中にある小さな紙箱を次々と取り出し、全部ばらばらにしてみたり、その箱を頭の上のせ、下に落ちるのを楽しんでみたりしています。箱の口を下にして大きな箱の上に小さな箱を積み重ねる子どももいます。もう一人の保育士がダンボールで作ったトンネルを出してくると、トンネルのなかをくぐる遊びもはじまりました。

### ●1歳児クラス

公園につくと、「今日はりす組さんしかいません、いっぱいマラソンをして体が温まってから遊びましょう」と、保育士が子どもたちに言います。公園内の遊具の周りを、保育士を先頭にグルグル回り、「温まったかな、お友だちと仲良く遊ぼうね、はいどうぞ」と子どもたちに言うと、子どもたちは一斉に遊具に集まりました。その間に、保育士の一人は、空き缶、たばこ、紙くずなど、公園のゴミを拾います。子どもが転ぶと、「〇〇ちゃん、大丈夫？お手手パンパン、上手に転んだね」と声をかけ、転んだときにしっかりと手が出たことを褒めていました。

ベンチにまたがってバスごっこが始まりました。「バスに乗って行きましょう」を歌いながら、先頭の子どもはバスのハンドルを回すまねをします。「ブーブー、どこにいきますか？」「おかいもの」など、ごっこ遊びを楽しんでいます。水仙が咲いているのに気づいて、においをかぐ子どももいました。

### ●2歳児クラス

午前中のおやつを食べ終える頃に、幼児クラスの元気な歌声が聞こえてきました。おやつを食べ終わった子どものなかには、一緒に歌う姿も見られます。子どもたちは自分のタオルを個人別のロッカーにある袋の中にしまい、その後、順番にトイレに行きます。子どもたちは順番に並び、自分でできるところまでズボンを脱いでいました。

保育士が「次は何をするか、わかるかな？」というとき、子どもたちは「じゅんびー」と答えます。個人別のロッカーのところに行き、自分の靴下と帽子を取り出します。保育士は子どもが自分でできるところまで見守り、必要な子どもには適宜援助をします。準備を終えた子どもから1列になって床に座り、全員がそろると、廊下の壁のフックにかかっている上着(ジャンパー)を取り、自分で着ていきます。

保育士が「お手手はこっちだよ」などと声かけして、自分で着ることができるところまで見守り、できた子どもには「上手だね」と声かけしながら、チャックを閉めてあげていました。

### ●3・4・5歳児クラス

この日の活動は、3歳児クラスと4・5歳児クラス合同で行われました。保育士が弾く電子ピアノの音にあわせて、朝の会では「雪のペンキ屋さん」、「北風小僧の寒太郎」など3曲歌います。「北風小僧の寒太郎」を歌う前に保育士は、「今日は元気な声の寒太郎と、きれいな声の寒太郎とどっちがいいと思う？」と子どもたちに聞くと、子どもたちのなかから、「きれいな声の寒太郎」という返事があがりました。「きれいな声で歌いましょう」と保育士が返事をして、歌い始めます。子どもたちは、がなり声になることなく、きれいな声で歌います。

出欠の確認で、保育士が「〇〇くん」というと、子どもは手を上げて「はい!」と答えます。保育士が「今日のペアはだれですか?」と続けて聞くと、子どもは「△△くんです」と答えます。子どもたちは今日の合同保育のペアを把握しているようでした。

「今日は、神社にお正月のお飾りを返しに行きます。みんなが元気にお正月を迎えることができたので、お礼を言いに行きます。園長先生から、お飾りを返しに行くことをお願いされました」、「帰ったら、お正月遊びのカルタをします」と、保育士が今日の活動について子どもたちに話します。どの子も保育士をみて、よく話を聞いていました。

園を出発し、ペアで2列になり神社に向かいます。30分ほど歩いたところで神社に着きました。保育士が「いいですか」と小さな声でいうと、子どもたちも「いいですよ」と小さな声で答えます。ペアで神社の境内に並び、2人ずつ鈴をならし、二礼二拍手一礼を行います。保育士が横につき、作法を教えてください。全員が参拝を終えると、古札納所に向かい、お飾りを納所に入れるのを、全員で見届けました。

神社の帰り道に、池にいるカモを見て、林の遊歩道を通り、「市民の森」に向かいます。市民の森には、雪がまだ残っており、子どもたちから「雪だー」と歓声が上がりました。保育士は、自由に遊ぶ時間を取ると、予定していたカルタ遊びができないことを気にしながらも、子どもたちの気持ちを受け止め、「滑りやすくて危ないから、雪があるところだけ、少し遊ぶことにします。石のところからは出ないで下さい」と言いました。子どもたちからは「わあー」と歓声が上がりました。子どもたちは手の平に雪をのせ「つめたーい」など言いながら、保育士に見せにいきます。雪をお団子のように丸めたり、丸めた雪を枝に刺してみたり、雪合戦をする子どももいました。保育士2名は子どもにかかわりながらも、全体を見ることが出来る位置で子どもを見守っています。転んで、「いたい、いたい」と言った子どもに、「ころんじゃったの?」と保育士が言い、子どもの手のひらを見ました。「〇〇ちゃん、大丈夫。手が出てよかったね」と保育士が言うと、子どもは、「ここ、ここ」と保育士に手の平を再度見せました。手のひらにけがは無かったようですが、「魔法のお薬を塗ろうか」と保育士が言い、リュックサックからクリームを取り出しました。手のひらに塗ってもらおうと、子どもはやっと落ち着いた表情になり、また遊び始めました。



## 事業者コメント

開園して2年に満たない時期で第三者評価を受けることが望ましいことなのかどうかと、不安を抱きながらも母体となる会社側に評価機関を選んでいただき準備を進めることになりました。

まず、10月6日に評価機関の説明会が開催され、全職員を対象に第三者評価の趣旨や流れについて、ていねいに説明していただきました。その際配布された自己評価票は、項目別に質問事項がぎっしり詰まっており、項目によってはかなり難しい質問内容で、多少の焦りを感じました。が、自己評価の実施期間は2ヶ月だということなので、各自で自己評価をし、理解出来ない項目は白紙にし、理解不足を補う意味でクラスミーティングを行い、意見交換をした上で評価の見直しをしたのち、全体ミーティングへと進みました。

全体ミーティングでは保育士が保育する上ではさほど関心を持っていないと思われる質問事項に対しては、一項目ごとに園長の見解で説明していきました。

その後園全体として、どちらかといえば取り組み不十分な地域支援や保護者支援などに関する説明を加え、当園で実施している内容の何がどのようにあてはまるのかを話し合ったり、今後どのように取り組むべきかの方向性を全職員で検討しました。

また、日頃から気になっていながらなかなか手が出ない環境構成については誰もが大切な点だと理解しており、今回の評価を意識して、配置移動や年齢に応じた使いやすい玩具に切り換える等の工夫をしました。

保育の基本となる理念・方針については、昨年から繰り返し伝え続けることで多くの職員に浸透してきていると感じ「気づき」の場面が増えてきているので、継続していきたい点です。全体ミーティングで確認した項目の全てを、12月に入り最終的な自己評価結果として主任と園長でまとめ、評価機関に提出するに至りました。その後、年明けの1月22日と26日の両日に訪問調査として、保育の様子を観察していただき、無事調査終了となりました。調査者の皆様にはいろいろご指導いただき、ありがとうございました。





---

**福祉サービス第三者評価 評価機関**

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号  
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号  
横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01  
全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-02

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター  
〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室  
TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118  
<http://www.yresearch-center.jp>

